



# どうにかする力

泗水小学校だより  
R4. 7. 25 (月)  
No. 15  
校長 工藤竜一

【校訓】 なかよく つよく しんけんに

【学校教育目標】 自立する泗水っ子の育成

～「生きる力=どうにかする力」を育む教育活動を通して～

## B & G水辺の安全教室、SDGs 講座がありました！

7月21日(木)、5～6年生を対象にB & G水辺の安全教室がありました。市社会体育課から3名がインストラクターとして来校され、水難事故防止や命を守る方法について実技指導をしていただきました。

7月22日(金)には、4～5年生を対象にSDGs 講座がありました。菊池市の提携先であるあいおいニッセイ同和損保の指導者の方に各教室をオンラインで結んで講話をしていただきました。

前期前半の終了を前にした時期でしたが、専門的な指導をしていただいたことで意欲的に学習に取り組むことができました。安全教室については、夏休みの万が一の水難事故に備えて、命を守る行動に生かしてほしいと思います。また、SDGs 講座については、前期後半以降の学習や自分にできる身近なことから実践に生かしてほしいと思います。



水辺の安全教室の様子



SDGs 講座の様子

## 2つの団体から雑巾を寄贈していただきました！

7月20日(水)、JA菊池女性部泗水支部助け合いの会から森富江会長が来校され、手作りの雑巾3箱分を寄贈していただきました。

また、21日(木)には、菊池市むつみ会(右田美喜江会長)から手作り雑巾と廃油せっけんを寄贈していただきました。毎年寄贈していただいています。

泗水小では、縦割り班による「無言掃除」の取組を頑張っています。夏休み明けの掃除などに大切にに使わせていただきます。ありがとうございました。



JA女性部からの贈呈



むつみ会役員の皆さん

## ☆校長室から独り言13☆

### 自己有用感を育成するには子ども一人一人と正面から向き合うことが大切

「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」山本五十六の名言で、私の教育理念にも合致します。しかし、この「ほめる」という言葉は、とらえ方に注意が必要です。

「ほめる」という行為は、ほめる側(親・教師など)に基準があり、親や教師の基準以上だとほめ、基準以下だとしかることとなります。ですから、子どもは、自分がさほど努力もしていない、自分の功績でもないことを、「みなさん、よく頑張りましたね」と一括りにしてほめられても、うれしくもなく励みにもなりません。

一方で、「認める」という行為は、認められる側(子ども)に基準があります。親や教師の基準に達していなくても、子どもなりのこだわりで努力したり工夫したりしたことを、子どもは「認められたい」「ほめられたい」のです。評価をする場合には、親や教師が「がんばったね」とだけコメントするのではなく、子どもが「こだわった」「見てほしかった」点にふれてコメントを返すことが大切です。

国立教育政策研究所の「生徒指導リーフ」によると、自尊感情や自己肯定感よりも、「日本では『自己有用感』の育成を目指す方が適当と言える」と明記されています。自己有用感とは、「誰かの役に立った、誰かに喜んでもらった」など、相手の存在なしには生まれてこない感情です。自己有用感とは、人が生きていくうえで、決して揺らぐことのない基盤となるものです。自己有用感の獲得が、自尊感情の獲得につながることも想像できます。

山本五十六の名言には続きがあります。「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」これは、まさしく自己有用感の育成を目指した言葉なのです。